

平成30年度学校運営計画書

学校名 和歌山市立宮前小学校 校長名 坂本雅城 作成日 平成30年 5月8日

学校教育目標

健・心・知の育成

豊かな心で自然や人々とのふれあいを深め、差別をなくそうとする子どもを育てる。

友だちを大切に、広い視野に立ち、正しい判断ができる情操豊かな子どもを育てる。

自ら考え意欲的に学ぶ子どもの育成と共に、健康な子どもを育てる。

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
本年度の重点目標	(1) 保護者や地域の方々に授業参観や学校だより等での啓発活動を通して宮前教育方針を知ってもらう。 (2) 子どもの様子を積極的に保護者や地域の方々に知らせる。地域の先達を広く呼び掛け、協力していただく。 (3) 東和中学校との連携の充実・推進を図るとともに、幼稚園や保育所との連携を進める。	(1) 人権・同和教育を推進すると共に、人権意識の高揚(差別をなくそうとする意欲と実践力)に努める。 (2) 地域学習を中心とした人権総合学習等の取組を通して、地域の人々の願いや地域の自然に関心を持ち、つながり、関わり合いを深めていくようにする。 (3) 教師と子ども、子ども同士、教師と保護者の円滑な関係の構築に努める。	(1) 基礎学力の向上を図る。 (2) 指導方法の工夫改善を図る。 (3) 国語科を中心に、「伝え合う力」を高め授業研究を活性化する。 (4) 「うちどく」を推進し、親子の読書力向上と関係性の向上に寄与する。 (5) 外遊びを奨励すると共に、体力・運動能力・忍耐力の向上を目指す。
目標達成に向けた具体的方策	(1) 授業参観や教育講演会等を通して子どもの活動状況を広く知ってもらい、教職員・保護者・地域の方々の意識改革を図る。 (2) 学校だよりや学年だよりを自治会の回覧板等で、保護者や地域の人たちに本校の教育活動を知らせ、より多くの人に理解して頂けるように見出しや紙面、内容等の工夫を図る。 (3) 学校行事、学年行事、学校開放月間等を活用し、保護者や地域、教育関係者の学校訪問を促し、教職員の資質の向上を図る。 (4) 東和中学校との連携を進めるため、社会科授業の相互参観、中学校教員による外国語指導、児童・生徒間の交流等に取り組む。また、複数学年で、地域の幼稚園、保育所との交流を進めていく。	(1) 教科学習だけでなく、道徳や総合的な学習、学校内外の様々な教育活動を通して、児童の実態を十分にふまえ、同和・人権学習プラン等活用し、計画的、系統的な活動で、心に響く指導を重ねる。 (2) 地域に出かけたり、地域の先達の方にゲストティーチャーとして学校へ来ていただいたりする機会をふやし、いろいろな人・物・事に関心やつながりを深める機会を持ち、子どもの感性を高める。 (3) 教科学習はもとより、朝の会や終わりの会、清掃活動や児童会活動等、教育活動全般を通して、教師と子ども、子ども同士の心の交流を図り、お互いの人間関係の連携を強化し、どの子にとっても居場所のある学校・学級づくりを推進する。加えて、保護者との連携を密にし、関係性の向上に努める。	(1) 基礎学力充実の時間帯(昼学、放課後学習、長期休業集中学習)を設定し、国語科・算数科の徹底復習に努める。 (2) 算数科の授業は T.T、取り出し指導によるきめ細かな指導を行い、学習内容の確実な理解と定着を図る。 (3) 単元学習の考え方を根拠に持ち、内容的な条件として学習過程の適切な方針・計画を立て、指導と評価の一体化に努める。 (4) 話す・聞く力、書く、読む力を育てるため、各学年で研究授業を実施し、協議会等で研究を深め、実践に生かしていく。また、「ことばの力」を育てるために、「うちどく」を進め、朝の読書の時間を確保し、本を読む習慣づけをする。 (5) 個人個人の専門性を引き出し、自主的に授業公開、研究を促し、協議する中で、工夫・改善策を図り出す。
指標	幼小中の連携・接続の実践を各学年で実施できた(90%) 地域に開かれた学校として、講演会等への参加者を増やす(15%)	・学校、学級に居場所があると感じる(95%) ・地域、学年間の交流を持ち、目標とする人・事に触れる。(学期に1回)	・各専門教科について、公開授業の実施。(年2回) ・放課後学習の充実。(週4日) ・子供主体の授業を実施(80%)